#### 研究成果報告書 科学研究費助成事業

今和 4 年 5 月 3 0 日現在

機関番号: 12601

研究種目: 基盤研究(A)(一般)

研究期間: 2016~2020

課題番号: 16H02056

研究課題名(和文)心理職の活動を拡げるインターネット版認知行動療法の開発とプログラム評価

研究課題名(英文)Development and programme evaluation of internet cognitive behavioral therapy for the active participation of psychologists

#### 研究代表者

下山 晴彦 (Shimoyama, Haruhiko)

東京大学・大学院教育学研究科(教育学部)・教授

研究者番号:60167450

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 30.330.000円

研究成果の概要(和文):本研究は、メンタルヘルス問題を抱えていても相談をしないサービスギャップの解決に向けて、オンライン上で問題対処できるインターネット認知行動療法(ICBT)を活用してギャップをつなぐシステム構築を目的とした。ICBTアプリとWebsiteを制作し、さらにそれらの活用のためのPortal siteを開発した。効果研究では、Portal siteは、メンタルヘルスリテラシーを高め、自己スティグマを減じる効果が示された。次に心理士によるオンラインガイド機能を付け加え、実施マニュアルを作成した。効果研究の結果、共感的なサポートがICBTを遂行するための協働関係を形成することを明らになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義 メンタルヘルス問題を抱えていても、援助要請行動をしないことで問題が悪化し、引きこもることが生じる。そ の背景には、心理支援サービスが必要な人に適切に届いていないサービスギャップの問題がある。その要因とし て、心理相談にアクセスすることへの心理社会的バリアーがある。そこで本研究では、誰でも簡単に、有効性が 実証されている認知行動療法にアクセスできるICBTを制作し、さらに多様な支援サービスにつながるポータルサ イトを開発した。これはサービスギャップ解決の媒体を提供した意義がある。また、心理士がオンラインで利用 者をガイドするシステムを付け加えたことで利用者と心理士をつなぐ心理的媒体を提供した意義もある。

研究成果の概要(英文): Cognitive behavioral therapy (CBT) has become a major means to treat mental health issues. Given the high prevalence of the issues in Japan, it is an urgent task to provide patients with CBT properly. Meanwhile, there has long been a problem with patients not visiting a clinician, even when there is a mental health issue, and research into the service gap, that is, the difference between the need for and uptake of mental health services, has been ongoing. In order to fill the gap, first, we developed internet-based CBT(ICBT) and website to treat the issues. Next, we made a portal site to leads to the website and the apps of ICBT. RCT research indicated that it increased mental health literacy and decreased self-stigma significantly. Then, we added the online guide by psychologists and developed the detailed manual. Finally, we again conducted RCT research, which showed the empathetic communication facilitated by the guide developed the working alliance to complete the ICBT.

研究分野: 臨床心理学

キーワード: 臨床心理学 コンピュータ化認知行動療法 インターネット認知行動療法 認知行動療法ポータルサイト サービスギャップ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等に ついては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1.研究開始当初の背景

うつ病患者 100 万人、自殺者 3 万人、精神不調による経済損失推計 2.7 兆円といった深刻なメンタルヘルス問題に対応するために公認心理師法が 2015 年に国会で成立し、心理職の国家資格化が実現した。いじめや虐待、災害や事故によるトラウマも多く見られ、今後起こりえる東南海沖地震では多数の PTSD 患者の発生も予想された。厳しいストレス環境に加えて災害発生の危険を含めたリスク社会への対応は緊急の課題となっていた。認知行動療法 (CBT) はうつ病やトラウマといった精神障害への治療効果が実証されており、CBT の提供を核としたメンタルヘルス対策が必須であった。しかし我が国では精神障害への社会的スティグマが強く、相談や治療に対する回避傾向が強く、援助要請行動をせずに引きこもり、問題の悪化や慢性化を招く問題状況が生じていた。これは、相談・治療サービスが、支援を必要とする利用者に適切に届かないという意味でサービスギャップと呼ばれる。

#### 2.研究の目的

我が国においては、引きこもり300万人、不登校17万人に加えて、未受診のうつ病患者は受診患者100万人の3倍、自殺未遂者は既遂者3万人の10倍はいるとされるなど、相談・治療のサービスギャップは深刻な状態となっていた。そこで、本研究では、相談・治療サービスへのアクセシビリティを高めるためにコンピュータ化認知行動療法(CCBT)を発展させてインターネット版認知行動療法(ICBT)を中核とするサービスを開発・実装することを目的とした。具体的には、うつ病やトラウマといったメンタルヘルスの問題を抱えながらも援助要請をしない人々がアクセスしやすく、しかも継続利用を可能とするゲーミフィケーションを活用したCCBTの開発。心理職がインターネット上でCCBT利用の心理支援ガイドができるICBTの開発。ICBTを核としたソーシャル・サポートシステムの制作。使用データを解析し、プログラム評価研究によるサービスの適正化したシステムを構築することを目的とした。

# 3.研究の方法

プログラム評価研究の基本ロジックモデルに従い、1年目は CCBT を実践するための「投入資源」となるアプリケーション群と、CCBT を実施する心理職研修教材を試作し、整備する。2年目は、CCBT を実践する「活動」を開始し、アプロケーションを統合するポータルサイトを ICBT システムとして構成し、試験的に実施する。3年目は、ICBT ポータルサイトの実践データ分析の「結果」を確認し、ポータルサイト改修をを行う。4年目はポータルサイトを用いたサービスを産業領域のフィールドで実施し、その「成果」に基づいてサービスの適正化を行う。5年目は、総合的なプログラムの「評価」を行い、新たなサービスモデルを提案することとした。

#### 4.研究成果

研究期間後半に、開始当初に全く予想していなかった Covid-19 感染が生じ、予定していた研究 実施フィールドが使用できなくな理、研究の計画と方法を変更せざるを得なくなった。そのため、 研究期間を延長し、研究フィールドを変更し、共同関係に焦点化して効果研究を実施するととも ポータルサイト以外のインターネット心理支援サービスとしてアバター心理相談を開発した。

# 1)「投入資源」(2016年度)

複数の CCBT を作成し、その中から「うつ・いっぽ・いっぽ」「いっぷく堂」「レジリエンストレーニング」を改定し、ポータルサイトを構成した。心理職映像教材を作成し、無料公開した。並行して ICT によるメンタルサービス提供環境の基盤構築のために情報理工学系研究も実施多。「いっぷく堂」を始めとする CCBT アプリについては効果研究論文として発表した。[主な成果論文]Development and implementation of a three-day ICT-based mental health learning program. (Nakano,M., et al 2016), Designing behavioral self-regulation application for preventive personal mental healthcare (Hirano, M., et al. 2017) ディタッチト・マインドフルネスを取り入れたゲーム・アプリケーションの可能性の検討(大上他 2017)

#### 2)「活動」(2017年度)

CCBT を搭載したポータルサイト「こころの手帖」を統合型の ICBT としての改善を進め、インターネット上で援助要請促進に関する効果研究を実施した。その結果、うつ病理解やスティグ低減に有効であった。それと並行して制作アプリの効果研究も進めた。さらにガイド心理職の CBT 学習教材を製作した。「いっぷく堂」については A I 版を製作した。[主な成果業績]Standalone effects of a cognitive behavioral intervention using a mobile phone app on psychological distress and alcohol consumption among Japanese workers (Hamamura, et al 2018)、An Embodied Conversational Agent for Unguided Internet-Based CBT in Preventative Mental Health (Suganuma et al 2028)、前向きな諦めを促すインターネット認知行動療法(菅沼 2018)、レジリエンスの自己認識を目的とした予防的介入アプリケーションの検討(平野他 2018)

#### 3)「結果」(2018年度)

ポータルサイト「こころの手帖」のガイドを務める心理職マニュアル暫定版を作成し、試験的に実施し、モニターの聴き取り調査結果に基づき改定を行った。さらに協力企業の社員を対象として改訂版「こころの手帖」の介入効果の実装実験を行ったところ、アプリ間の移動システムに不具合があることが判明した。そこで各アプリの連携をスムーズにし、セキュリテイを高める改修をした。この改修によって心理職ガイドが積極的に利用者をリードするようにマニュアルの改定も行った。それに伴いポータルサイトの名称も「こころの手帖」から「ココロ・ストレッチ」と変更した。[主な成果業績] The efficacy of a web-based screening and brief intervention for reducing alcohol consumption among Japanese problem drinkers (Hamamura, et al 2018) Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan (Hirano et al 2019),うつ病患者に対する ICT を用いた心理支援の現状と今後の展望(三枝他 2019)

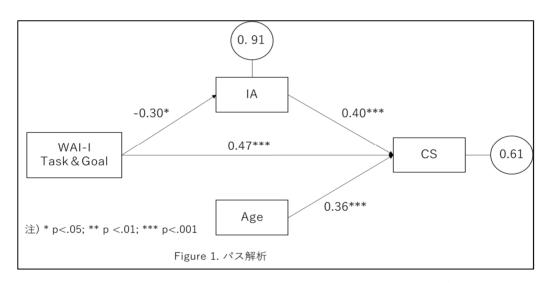
# 4)「成果」(2019年度)

インターネット版認知行動療法「ココロ・ス トレッチ」を実践し、その効果を検証するアクション・リ サーチを実施した。実施過程において利用者がプログラム中の表現(特に「うつ」)に敏感に反応し、自身がうつ状態と評価されるのではないかと不安に感じたことでプログラムを中断する者が多かった。研究遂行上、十分な利用者数を確保し量的検証を行うことが不可欠なため、計画を見直しとプログラム内容を変更する必要か生じた。また、利用者の不安反応と関連して、サービスギャップと関連して思春期のメンタルヘルス状況を検討した。[主な成果業績]うつ病治療のサービス・ギャップの解決に向けて(シュレンペ 2020)、心理支援ポータル

サイト「ココロ・ストレッチ」の研究(シュレンペル他 2020)、うつ病に対するインターネット を介した情報提供の促進可能性(シュレンペル他 2020),Emotion Regulation and Middle School Adjustment in Japanese Girls: Mediation by Perceived Social Support (Kitahara et al 2020)、Cyber bullying victimization and adolescent mental health: The differential moderating effects of intrapersonal and interpersonal emotional competence (Urano et al 2020)

### 5)「評価」(2020年度)

COVID-19 の感染拡大によってフィールトが確保できずアクションリサーチによる効果研究が実施できなくなった。 そこで、オンライン上で「ココロ・ストレッチ」の利用者をオンライン上 でガイドする心理士のフィードバックの影響に注目し、効果研究で焦点を当てる変数として利用者と心理士のワーキングアラインすを取り上げることとした。健常者 49 名を対象とし、セラピストからのフィードバックに個人が記入した内容への共感的な伝え返しが含まれているパーソナル群と、含まれていないジェネラル群の 2 群に無作為に分けて、「ココロストレッチ」を用いた 3 週間の体験プログラムに参加してもらい、その体験について質問紙調査を実施した。インターネットに対する態度を評価するためにインターネット態度尺度(IA)、利用者満足度日本語版 (CS)、プログラム参加によるワーキングアライアンスの変化を評価するために、介入前と介入後にそれぞれワーキングアライアンス評価尺度(WAI-I)を実施した。パス解析を実施し、適合度が有意なモデルが見られ( $\chi 2 = 2.52, p = 0.283, Df=2; GFI = 0.975, AGFI = 0.875, CFI = 0.980, RMSEA = 0.074, AIC = 18.524, SRMR = 0.086)。$ 



「利用者満足度」に対して「年齢」の有意な直接効果(.36),「ワーキングアライアンス内容下位指標」の有意な直接効果(.47),「インターネット態度尺度」を介した「ワーキングアライアンス内容下位指標」の有意な間接効果が見られた(-.12)。「内容下位指標」が「利用満足度」を促進する結果は、インターネット版認知行動療法における支援内容の重要性が示唆された(Figure1)。また、この間、COVID-19 感染拡大によってオンライン心理相談が急拡大したことに伴い、アクセシビリティの改善を目的としてアバター心理相談システムの開発研究も実施した。[主な成果業績] オンライン心理相談の最前線(下山他 2021)、オンライン心理支援におけるワーキングアライアンスの意義について(蒲他 2021)、アバター通信を用いた心理支援における非言語コミュニケーションの豊富さと対面性の低さの役割の検討(三枝他 2022)

# 5 . 主な発表論文等

「雑誌論文〕 計36件(うち査読付論文 28件/うち国際共著 12件/うちオープンアクセス 7件)

〔雑誌論文〕 計36件(うち査読付論文 28件 / うち国際共著 12件 / うちオープンアクセス 7件)	
1 . 著者名 三枝弘幸・内村慶士・ 谷川智洋・下山 晴彦	4.巻 30(3)
2.論文標題 アバター通信を用いた心理支援における非言語コミュニケーションの豊富さと対面性の低さの役割の検討	5 . 発行年 2022年
3.雑誌名 パーソナリティ研究	6.最初と最後の頁 174-185
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1.著者名	4.巻 44
2.論文標題 オンライン心理支援におけるワーキングアライアンスの意義について	5 . 発行年 2021年
3.雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要	6.最初と最後の頁 25-31
  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)   なし	金読の有無無無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1.著者名 Kitahara, Y., Mearns, J., ,Shimoyama, H.,	4.巻 62(2)
2 . 論文標題 Emotion Regulation and Middle School Adjustment in Japanese Girls: Mediation by Perceived Social Support	5 . 発行年 2020年
3.雑誌名 Japanese Psychological Research	6 . 最初と最後の頁 138-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jpr.12280	   査読の有無   有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1.著者名 Urano, Y., Takizawa, R., Ohka, M., Yamasaki, H., & Shimoyama	4.巻 80
2.論文標題 Cyber bullying victimization and adolescent mental health: The differential moderating effects of intrapersonal and interpersonal emotional competence	5 . 発行年 2020年
3.雑誌名 Journal of Adolescence	6.最初と最後の頁 182-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
   オープンアクセス   オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著

	<b>*</b>
シュレンペル レナ,菅沼慎一郎,下山晴彦       37         2.論文標題       5.	2
2 . 論文標題 5 .	
	(0)
	発行年
うつ病に対するインターネット を介した情報提供の促進可能性	20年
プン病に対するインターネット を用した情報提供の促進可能性 20g	1204
3.雑誌名 6.	最初と最後の頁
	99-609
心理關床字研九 58	99-009
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読	の有無
なし	有
オープンアクセス	+ *
	<b>共</b> 有
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名 4	巻
シュレンペル レナ・内村慶士・下山晴彦 43	
フュレン・ハレーレフ・ドリリカ後上・ドロ明尼	
2.論文標題 5.	発行年
	20年
6-	
3.雑誌名 6.	最初と最後の頁
** *** * *	
東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要 25	5-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <b></b>	の有無
なし	無
	<del>////</del>
オープンアクセス 国際	共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	
オープンデクと人とはない、又はオープンデクと人が困難	-
1.著者名 4.	<b>券</b>
三枝弘幸・中村杏奈・シュレンペル レナ・内村慶士・下山晴彦 42	
2.論文標題 5.	発行年
うつ病患者に対するICTを用いた心理支援の現状と今後の展望 20	)19年
2 1844 7	目初上目後の王
3.雑誌名 6.	最初と最後の頁
東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要 39	9-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読	の有無
· ·	
なし	無
オープンアクセス 国際	<b>共</b> 著
	A P
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1	<del>*</del>
1 . 著者名 4	_
下山晴彦 45	(1)
	•
0 +A-1-IFDE	3V. / = I
2 . 論文標題	発行年
公認心理師と認知行動療法の活用 20	)19年
And the second of the second o	
- +N+1 <del>-</del>	最初と最後の頁
3.雑誌名 6.	
	14
3.雑誌名     6.       精神療法     7-	
精神療法                    7-	の有無
精神療法       7-         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)       査読	の有無
精神療法                    7-	の有無 無
精神療法       7-         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)       査読	
精神療法       7-         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)       査読         なし       ***	無
精神療法       7-         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)       査読	無

1. 著者名 含真美華・大井葉月・下山晴彦       4 . 巻 42         2 . 論文標題 感情労働者の早期離職に関する研究の概観:離職要因と支援可能性に着目して       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要       6 . 最初と最後の頁 7-14         掲載論文の2001 (デジタルオブジェクト講別子) なし       重読の有無 無         オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       4 . 巻 42         1 . 著者名 井上薫・片岡優介・下山晴彦       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要       6 . 最初と最後の頁 47-54         掲載論文の2001 (デジタルオブジェクト識別子) なし       重読の有無 無         オープンアクセス オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       車際共著 - 1 . 著者名 H rano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.       4 . 巻 18(2)         1 . 著名 H rano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.       4 . 巻 18(2)         3 . 雑誌名 Gerontechnology       6 . 最初と最後の頁 89-96
2. 論文標題
感情労働者の早期離職に関する研究の概観:離職要因と支援可能性に着目して       6 . 最初と最後の頁 7-14         3 . 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要       6 . 最初と最後の頁 7-14         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし       直読の有無 無         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       1 . 著者名 井上薫・片岡優介・下山晴彦         2 . 論文標題 レジリエンス育成プログラムの概観と今後の展望:児童・青年期を中心として       5 . 飛行年 2019年         3 . 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要       6 . 最初と最後の頁 47-54         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)なし       査読の有無 無         オープンアクセス ではない、又はオープンアクセスが困難       1 . 著者名 Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.       4 . 巻 18(2)         2 . 論文標題 Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan       5 . 飛行年 2019年         3 . 雑誌名       6 . 最初と最後の頁
感情労働者の早期離職に関する研究の概観:離職要因と支援可能性に着目して       6 . 最初と最後の頁 7-14         3 . 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要       6 . 最初と最後の頁 7-14         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし       直読の有無 無         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       1 . 著者名 井上薫・片岡優介・下山晴彦         2 . 論文標題 レジリエンス育成プログラムの概観と今後の展望:児童・青年期を中心として       5 . 飛行年 2019年         3 . 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要       6 . 最初と最後の頁 47-54         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)なし       査読の有無 無         オープンアクセス ではない、又はオープンアクセスが困難       1 . 著者名 Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.       4 . 巻 18(2)         2 . 論文標題 Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan       5 . 飛行年 2019年         3 . 雑誌名       6 . 最初と最後の頁
感情労働者の早期離職に関する研究の概観:離職要因と支援可能性に着目して       6 . 最初と最後の頁 7-14         3 . 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要       6 . 最初と最後の頁 7-14         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし       直読の有無 無         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       1 . 著者名 井上薫・片岡優介・下山晴彦         2 . 論文標題 レジリエンス育成プログラムの概観と今後の展望:児童・青年期を中心として       5 . 飛行年 2019年         3 . 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要       6 . 最初と最後の頁 47-54         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)なし       査読の有無 無         オープンアクセス ではない、又はオープンアクセスが困難       1 . 著者名 Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.       4 . 巻 18(2)         2 . 論文標題 Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan       5 . 飛行年 2019年         3 . 雑誌名       6 . 最初と最後の頁
3 . 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要
東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要 7-14 査読の有無 無 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 5 発行年 2019年 3 . 雑誌名 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 5 . 発行年 なし カープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 カープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 5 . 発行年 2019年 47-54 基調なのの01(デジタルオプジェクト識別子) 査読の有無 無 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 6 . 最初と最後の頁 オープンアクセス 1 国際共著 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 47-54 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 47-54 5 . 発行年 2019年 7 . 1 . 著者名 8 . 1 . 1 . 1 . 1 . 1 . 1 . 1 . 1 . 1 .
東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要 7-14 査読の有無 無 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 5 発行年 2019年 3 . 雑誌名 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 5 . 発行年 なし カープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 カープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 5 . 発行年 2019年 47-54 基調なのの01(デジタルオプジェクト識別子) 査読の有無 無 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 6 . 最初と最後の頁 オープンアクセス 1 国際共著 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 47-54 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 47-54 5 . 発行年 2019年 7 . 1 . 著者名 8 . 1 . 1 . 1 . 1 . 1 . 1 . 1 . 1 . 1 .
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)
# オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 著者名 #上薫・片岡優介・下山晴彦 4 . 巻 42
# オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 著者名 #上薫・片岡優介・下山晴彦 4 . 巻 42
# オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 著者名 #上薫・片岡優介・下山晴彦 4 . 巻 42
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1. 著者名 井上薫・片岡優介・下山晴彦 4. 巻 4. 巻 4. 巻 4. 巻 4. 章 4. 章 4. 章 4. 章
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1. 著者名 井上薫・片岡優介・下山晴彦 4. 巻 4. 巻 4. 巻 4. 巻 4. 章 4. 章 4. 章 4. 章
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1 . 著者名 井上薫・片岡優介・下山晴彦       4 . 巻 42         2 . 論文標題 レジリエンス育成プログラムの概観と今後の展望:児童・青年期を中心として       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要       6 . 最初と最後の頁 47-54         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       国際共著 1 . 著者名 Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.       4 . 巻 18(2)         2 . 論文標題 Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名       6 . 最初と最後の頁
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1 . 著者名 井上薫・片岡優介・下山晴彦       4 . 巻 42         2 . 論文標題 レジリエンス育成プログラムの概観と今後の展望:児童・青年期を中心として       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要       6 . 最初と最後の頁 47-54         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       国際共著 1 . 著者名 Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.       4 . 巻 18(2)         2 . 論文標題 Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名       6 . 最初と最後の頁
1 . 著者名 井上薫・片岡優介・下山晴彦       4 . 巻 42         2 . 論文標題 レジリエンス育成プログラムの概観と今後の展望:児童・青年期を中心として       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要       6 . 最初と最後の頁 47-54         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       国際共著 1 . 著者名 Hi rano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.       4 . 巻 18(2)         2 . 論文標題 Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名       6 . 最初と最後の頁
井上薫・片岡優介・下山晴彦       42         2 . 論文標題 レジリエンス育成プログラムの概観と今後の展望:児童・青年期を中心として       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要       6 . 最初と最後の頁 47-54         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       国際共著 -         1 . 著者名 Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.       4 . 巻 18(2)         2 . 論文標題 Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名       6 . 最初と最後の頁
井上薫・片岡優介・下山晴彦       42         2 . 論文標題 レジリエンス育成プログラムの概観と今後の展望:児童・青年期を中心として       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要       6 . 最初と最後の頁 47-54         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       国際共著 -         1 . 著者名 Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.       4 . 巻 18(2)         2 . 論文標題 Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名       6 . 最初と最後の頁
2 . 論文標題 レジリエンス育成プログラムの概観と今後の展望:児童・青年期を中心として       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要       6 . 最初と最後の頁 47-54         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       国際共著 -         1 . 著者名 Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.       4 . 巻 18(2)         2 . 論文標題 Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名       6 . 最初と最後の頁
2 . 論文標題 レジリエンス育成プログラムの概観と今後の展望:児童・青年期を中心として       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要       6 . 最初と最後の頁 47-54         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       国際共著 -         1 . 著者名 Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.       4 . 巻 18(2)         2 . 論文標題 Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名       6 . 最初と最後の頁
レジリエンス育成プログラムの概観と今後の展望:児童・青年期を中心として       2019年         3.雑誌名東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要       6.最初と最後の頁47-54         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし       査読の有無無無         オープンアクセス       国際共著         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1.著者名Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.       4.巻 18(2)         2.論文標題Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan       5.発行年2019年         3.雑誌名       6.最初と最後の頁
レジリエンス育成プログラムの概観と今後の展望:児童・青年期を中心として       2019年         3.雑誌名東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要       6.最初と最後の頁47-54         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし       査読の有無無無         オープンアクセス       国際共著         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1.著者名Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.       4.巻 18(2)         2.論文標題Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan       5.発行年2019年         3.雑誌名       6.最初と最後の頁
3.雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名 Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.  2.論文標題 Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan  3.雑誌名  6.最初と最後の頁  4.巻 18(2)  5.発行年 2019年
東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.  2 . 論文標題 Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan  3 . 雑誌名  47-54    A . 巻
東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.  2 . 論文標題 Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan  3 . 雑誌名  47-54    A . 巻
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  コープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.  2 . 論文標題 Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan  3 . 雑誌名  「直読の有無 無  4 . 巻 18(2)  5 . 発行年 2019年
### オープンアクセス   国際共著   「国際共著   「工業者名   Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.   4.巻   18(2)   18(2)   2.論文標題   Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan   2019年   3.雑誌名   6.最初と最後の頁
### オープンアクセス   国際共著   「国際共著   「工業者名   Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.   4.巻   18(2)   18(2)   2.論文標題   Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan   2019年   3.雑誌名   6.最初と最後の頁
### オープンアクセス   国際共著   「国際共著   「工業者名   Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.   4.巻   18(2)   18(2)   2.論文標題   Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan   2019年   3.雑誌名   6.最初と最後の頁
### オープンアクセス   国際共著   「国際共著   「工業者名   Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.   4.巻   18(2)   18(2)   2.論文標題   Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan   2019年   3.雑誌名   6.最初と最後の頁
オープンアクセス 国際共著 - I . 著者名 Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H. I . 第一日
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 -  1 . 著者名 Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.  2 . 論文標題 Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan  3 . 雑誌名  6 . 最初と最後の頁
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 -  1 . 著者名 Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.  2 . 論文標題 Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan  3 . 雑誌名  6 . 最初と最後の頁
1 . 著者名 Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H.  2 . 論文標題 Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan  3 . 雑誌名  4 . 巻 18(2)  5 . 発行年 2019年
Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H. 18(2)  2 . 論文標題 Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan 2019年  3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁
Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H. 18(2)  2 . 論文標題 Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan 2019年  3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁
Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Nakano, M., Tsuchida, T., Iwano, Y. & Shimoyama, H. 18(2)  2 . 論文標題 Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan 2019年  3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁
2 . 論文標題 Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan5 . 発行年 2019年3 . 雑誌名6 . 最初と最後の頁
Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan 2019年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁
Robotic utterance style to promote conversation with elderly people in Japan 2019年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁
3.雑誌名       6.最初と最後の頁
Gerontechnology 89-96
1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)
なし
オープンアクセス
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 -
1 . 著者名 4 . 巻
Nakamura, A., Takizawa, R., & Shimoyama, H.
nakamata, n., takizawa, n., u olimbyama, n.
9 AA-188
2 . 論文標題 5 . 発行年
Increased sensitivity to sad faces in depressive symptomatology: A longitudinal study 2018年
3.雑誌名 6.最初と最後の頁
Journal of Affective Disorders 99-104
33-104
担封公立のDOL(ごごクリナゴご) カー神叫フン
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)
なし

	1
1 . 著者名	4.巻
Hamamura, T., Suganuma, S., Takano, A., Matsumoto, T., & Shimoyama, H.	7(5)
2.論文標題 The efficacy of a web-based screening and brief intervention for reducing alcohol consumption among Japanese problem drinkers: Protocol of a single-blind randomized controlled trial.	5 . 発行年 2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
JMIR Research Protocol	e10650
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.2196/10650	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている (また、その予定である)	該当する
1.著者名	4.巻
Hamamura, T., Suganuma, S., Ueda, M., Mearns, J., & Shimoyama, H.	5(1)
2.論文標題 Standalone effects of a cognitive behavioral intervention using a mobile phone app on psychological distress and alcohol consumption among Japanese workers: Pilot nonrandomized controlled trial.	5 . 発行年 2018年
3.雑誌名	6 . 最初と最後の頁
JMIR Mental Health	e24
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.2196/mental.8984	   査読の有無   有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	該当する
1 . 著者名	4.巻
Suganuma S, Sakamoto D, Shimoyama H	5(3)
2. 論文標題 An Embodied Conversational Agent for Unguided Internet-Based Cognitive Behavior Therapy in Preventative Mental Health: Feasibility and Acceptability Pilot Trial	5 . 発行年 2018年
3.雑誌名	6 . 最初と最後の頁
JMIR Mental Health	e10454
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	   査読の有無   有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	該当する
1.著者名	4. 巻
平野真理・小倉加奈子・能登眸・下山晴彦	18(6)
2.論文標題 レジリエンスの自己認識を目的とした予防的介入アプリケーションの検討 レジリエンスの「低い」人に 効果的なサポートを目指して	5 . 発行年 2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
臨床心理学	731-742
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	   査読の有無   有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する

1 菜2夕	4 . 巻
1.著者名 Mari Hirano ,Kanako Ogura, Mizuho Kitahara, Daisuke Sakamoto, Haruhiko Shimoyama	4.仓   4
mati ititalio ,tanako ogata, mizano kitahata, batoako oakamoto, itataitiko oitimoyama	·
2.論文標題	5.発行年
Designing behavioral self-regulation application for preventive personal mental healthcare	2017年
0 1644 /7	c ====================================
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Health Psychology Open	1
掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス オープンマクセストーズいる (また、そのNSである)	国際共著 該当する
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	談当する
1 . 著者名	4 . 巻
1.向江 亮・下山晴彦	17(3)
2 . 論文標題	5.発行年
企業におけるメンタルヘルス対策の効果・役割への従業員の期待と勤務先の組織要因および個人要因との関連についるのだ。	2017年
関連についての検討	6.最初と最後の頁
3 . 雑誌名 臨床心理学	6. 最例と最後の貝   359-369
明小心・生子	355-365
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	- -
1 . 著者名	4 . 巻
大上真礼・平野真理・山本瑛美・下山晴彦	2(1)
2.論文標題	5 . 発行年
2. im又信題 ディタッチト・マインドフルネスの促進を目的としたゲーム・アプリケーションの可能性の検討 アプ	2017年
リの開発と実証試験を通して	2017-
3. 雑誌名	6.最初と最後の頁
マインドフルネス研究	1-7
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	<u>│</u> │ 査読の有無
句取論文のDOT(デンタルオフシェクト部別士) なし	│ 旦硫の有無 │     有
	Ħ
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4.巻
菅沼慎一郎・平野真理・川崎舞子・下山晴彦	35(2)
2 . 論文標題	
- ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2017年
AND THE PROPERTY OF THE PROPER	
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
心理臨床学研究	192 - 198
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	   査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	

オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	
なし 	有 有 国際共著
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	   査読の有無
3.雑誌名 臨床心理学	6.最初と最後の頁 713-722
中学生を対象とした抑うつ予防心理教育プログラムの試行	2016年
定 出美・トロ 項疹 2.論文標題	5 . 発行年
1.著者名 堤 亜美・下山 晴彦	4.巻 16(6)
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無   有
心理臨床学	471 - 475
日本盛warwick-Editibution well-being Scale (wewwbS)の下放と信頼性・女当性の検討 3.雑誌名	6.最初と最後の頁
2.論文標題 日本盤Warwick-Edinburgh Well-being Scale (WEMWBS)の作成と信頼性・妥当性の検討	5.発行年 2016年
1 . 著者名 菅沼 慎一郎・平野 真理・中野 美奈 ・下山 晴彦	4.巻 16(4)
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
オープンアクセス	国際共著
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
心理臨床学研究	556-567
他職種との協働の現状に対する臨床心理士の認識 	2016年 6 . 最初と最後の頁
2 . 論文標題	5 . 発行年
1 . 著者名 羽澄 恵・能登 眸・川崎 隆・樫原 潤・髙木 郁彦・下山 晴彦	4.巻 33(6)
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
なし  オープンアクセス	有
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
臨床心理学	723-732
国勤にで行する「グレグ」に映作の「こちの体験目の心理過程	6.最初と最後の頁
2 . 論文標題 衝動性を有するトゥレット症候群の子どもの保護者の心理過程	5 . 発行年 2016年
1 . 著者名 藤尾 末由希・金生 由紀子・松田 なつみ・野中 舞子・河野 稔明・下山 晴彦	4.巻 16(6)

1 . 著書名 大上真礼 - 平野真理・山本瑛美・下山崎彦 2 (1) 2 . 論文標題 ) ディクッチナ・マインドフルネスを取り入れたゲーム・アブリケーションの可能性の検討: アブリの 同発と被認証験を通して 3 . 報送名 「大クッチナ・マインドフルネス研究 1. 著書名 Mari Hirano, Kanako Ogura, Mizuo Kitahara, Daisuke Sakamoto, Haruhiko Shimoyana  1 . 著書名 Mari Hirano, Kanako Ogura, Mizuo Kitahara, Daisuke Sakamoto, Haruhiko Shimoyana  2 . 論文構題 Daisura pehavioral self-regulation application for preventive personal mental healthcare  2 . 前文構題 Daisura pehavioral self-regulation application for preventive personal mental healthcare  3 . 創設名 Health Psychology Open  超粉論文のDOI (デジタルオブジェクト提別子) なし  3 . 引送名 Anazio Mizuno, Daisuke Sakamoto, and Takeo Igarashi  1 . 著名名 Assisfag: Seanless Integration of Content-based and Keymord-based Image Exploration for Category, Search 3 . 列誌名 Journal of Imaging Science and Technology, Society for Imaging Science and Technology  第 3 . 列誌名 3 . 列誌名 3 . 列誌名 3 . 列誌名 4 . 意 6 . 最初と価格の頁 60401-1-12(12)  2 . 論文構置 3 . Junial of Imaging Science and Technology, Society for Imaging Science and Technology  8 . 意才の有限 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが固婚  1 . 著名名 BB		
2. 論文標題 ) ディタッチト・マインドフルネスを取り入れたゲーム・アブリケーションの可能性の検討: アブリの 開発と実証域を通して 3. 雑誌名 マインドフルネス研究 4. 最初に高くの001(デジタルオブジェクト説別子) なし オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1. 著名名 Mari Hirano, Kanako Cgura, Mizuo Kitahara, Daisuke Sakanoto, Haruhiko Shimoyana 「印象中 2. 論文機器 Designing behavioral self-regulation application for preventive personal mental healthcare  3. 雑誌名 Health Psychology Open  4. 是	1 . 著者名	_
) ディタッチト・マインドフルネスを取り入れたゲーム・アブリケーションの可能性の検討: アブリの	大上真礼・平野真理・山本瑛美・下山晴彦	2(1)
) ディタッチト・マインドフルネスを取り入れたゲーム・アブリケーションの可能性の検討: アブリの	2 绘文価語	C
勝野と実証試験を通して   1・7   1・1   1・7		
8 ・最初と歴後の頁 1.7  「根数論文の201(デジタルオブジェクト識別子)		20174
1.7		6 最初と最後の百
超額論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 著名名 Mari Hirano、Kanako Ogura、Mizuo Kitahara、Daisuke Sakanoto、Haruhiko Shimoyama 2 論文標題 Designing behavioral self-regulation application for preventive personal mental healthcare 3 確認名 Health Psychology Cpen  月閲覧論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 著名名 Kazuyo Mizuno、Daisuke Sakanoto、and Takeo Igarashi 2 論文程理 の		
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1. 著名名 Mari Hirano, Kanako Ogura, Mizuo Kitahara, Daisuke Sakamoto, Haruhiko Shinoyama  2. 論文標題 Dasigning behavioral self-regulation application for preventive personal mental healthcare  3. 確認る Health Psychology Open  5. 発行年 2017年 2018年	マコンドフルか入明元	1-7
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1. 著名名 Mari Hirano, Kanako Ogura, Mizuo Kitahara, Daisuke Sakamoto, Haruhiko Shinoyama  2. 論文標題 Dasigning behavioral self-regulation application for preventive personal mental healthcare  3. 確認る Health Psychology Open  5. 発行年 2017年 2018年		
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1. 著名名 Mari Hirano, Kanako Ogura, Mizuo Kitahara, Daisuke Sakamoto, Haruhiko Shinoyama  2. 論文標題 Dasigning behavioral self-regulation application for preventive personal mental healthcare  3. 確認る Health Psychology Open  5. 発行年 2017年 2018年	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1. 著者名 Mari Hirano, Kanako Ogura, Mizuo Kitahara, Daisuke Sakamoto, Haruhiko Shinoyama  2. 論文標題 Designing behavioral self-regulation application for preventive personal mental healthcare  3. 雑誌名 Health Psychology Open  描載語文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし  1. 著者名 Kazuyo Mizuno, Daisuke Sakamoto, and Takeo Igarashi  2. 論文標題 AssisTag: Seamless Integration of Content-based and Keyword-based Image Exploration for Category Search  3. 雑誌名 Journal of Imaging Science and Technology, Society for Imaging Science and Technology  超載語文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.2352/J. IlmagingSci. Technol. 2016.60.6.060401  オープンアクセス オープンアクセス  基語の有無 有 オープンアクセス  はいることを表現の表現の表現の表現のは、デジタルオプジェクト識別子) 10.2352/J. JimagingSci. Technol. 2016.60.6.060401  オープンアクセス  はいることを表現の表現の表現の表現の表現の表現の表現の表現の表現の表現の表現の表現の表現の表		
1 : 著者名   1 : 著者名   2 : 論文標題   2 : 論文標題   3 : 報話名   4 : 巻		13
1. 著者名   Mari Hirano, Kanako Ogura, Mizuo Kitahara, Daisuke Sakamoto, Haruhiko Shimoyama   4 . 巻 印刷中   2 . 論文標題   2 . 論文標題   5 . 発行年   2017年   2017年   3 . 雜誌名   6 . 最初と最後の頁 印刷中   5 . 兼行年   2017年   3 . 雜誌名   6 . 最初と最後の頁 印刷中   5 . 兼行年   2017年   5 . 兼行年   2017年   5 . 兼行年   2017年   6 . 最初と最後の頁 印刷中   6 . 最初と最後の頁 印刷中   6 . 最初と最後の頁 印刷中   7 . 本ープンアクセスとしている(また、その予定である)   7 . 本ープンアクセスとしている(また、その予定である)   7 . 本ープンアクセスとしている(また、その予定である)   7 . 表書名   7 . 表記は「表記は「表記は「表記は「表記は「表記は「表記は「表記は「表記は「表記は「	オープンアクセス	国際共著
1. 著者名   Mari Hirano, Kanako Ogura, Mizuo Kitahara, Daisuke Sakamoto, Haruhiko Shimoyama   4 . 巻 印刷中   2 . 論文標題   2 . 論文標題   5 . 発行年   2017年   2017年   3 . 雜誌名   6 . 最初と最後の頁 印刷中   5 . 兼行年   2017年   3 . 雜誌名   6 . 最初と最後の頁 印刷中   5 . 兼行年   2017年   5 . 兼行年   2017年   5 . 兼行年   2017年   6 . 最初と最後の頁 印刷中   6 . 最初と最後の頁 印刷中   6 . 最初と最後の頁 印刷中   7 . 本ープンアクセスとしている(また、その予定である)   7 . 本ープンアクセスとしている(また、その予定である)   7 . 本ープンアクセスとしている(また、その予定である)   7 . 表書名   7 . 表記は「表記は「表記は「表記は「表記は「表記は「表記は「表記は「表記は「表記は「	オープンアクセスとしている (また、その予定である)	-
Mari Hirano, Kanako Ogura, Mizuo Kitahara, Daisuke Sakamoto, Haruhiko Shimoyama		
2. 論文榜題	1.著者名	4 . 巻
2. 論文榜題	Mari Hirano, Kanako Ogura, Mizuo Kitahara, Daisuke Sakamoto, Haruhiko Shimovama	印刷中
Designing behavioral self-regulation application for preventive personal mental healthcare 2017年  3. 雑誌名 6. 最初と最後の頁 印刷中  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	man and , manage egal a, miles and a, serious outlands, in a control of the control of	
Designing behavioral self-regulation application for preventive personal mental healthcare 2017年  3. 雑誌名 6. 最初と最後の頁 印刷中  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	2. 論文標題	5.発行年
8		
日報論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)   査読の有無   有   オープンアクセス   国際共著   族当する	2. J. J. 2. 2. 2. 2. 1. 1. J. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2.	
日報論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)   査読の有無   有   オープンアクセス   国際共著   族当する	3.雑誌名	6.最初と最後の頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセス オーブンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 Kazuyo Mizuno, Daisuke Sakamoto, and Takeo Igarashi 2 . 論文標題		
### おっぱっか		
### おっぱっか		
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 該当する	掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
オーブンアクセスとしている(また、その予定である)       該当する         1 . 著者名 Kazuyo Mizuno, Daisuke Sakamoto, and Takeo Igarashi       4 . 巻 60 (6)         2 . 論文標題 AssisTag: Seamless Integration of Content-based and Keyword-based Image Exploration for Category Search       5 . 発行年 2016年         3 . 雑誌名 Journal of Imaging Science and Technology, Society for Imaging Science and Technology       6 . 最初と最後の頁 60401-1-12(12)         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2352/J. ImagingSci. Technol. 2016.60.6.060401       重読の有無 有         1 . 著者名 尉林 暉, 杉浦 裕太, 坂本 大介, チョン トピー, 宮田 なつき, 多田充徳, 大隈 隆史, 蔵田 武志, 新村 猛, 持丸 正明, 五十嵐 健夫       4 . 巻 57(12)         2 . 論文標題 DOI I house VR: 複数人が異なる視点で共同作業を行うVR環境       5 . 発行年 2016年         3 . 雑誌名 情報処理学会論文誌,情報処理学会       6 . 最初と最後の頁 2610-2616         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無	なし	有
オーブンアクセスとしている(また、その予定である)       該当する         1 . 著者名 Kazuyo Mizuno, Daisuke Sakamoto, and Takeo Igarashi       4 . 巻 60 (6)         2 . 論文標題 AssisTag: Seamless Integration of Content-based and Keyword-based Image Exploration for Category Search       5 . 発行年 2016年         3 . 雑誌名 Journal of Imaging Science and Technology, Society for Imaging Science and Technology       6 . 最初と最後の頁 60401-1-12(12)         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2352/J. ImagingSci. Technol. 2016.60.6.060401       重読の有無 有         1 . 著者名 尉林 暉, 杉浦 裕太, 坂本 大介, チョン トピー, 宮田 なつき, 多田充徳, 大隈 隆史, 蔵田 武志, 新村 猛, 持丸 正明, 五十嵐 健夫       4 . 巻 57(12)         2 . 論文標題 DOI I house VR: 複数人が異なる視点で共同作業を行うVR環境       5 . 発行年 2016年         3 . 雑誌名 情報処理学会論文誌,情報処理学会       6 . 最初と最後の頁 2610-2616         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無		
1 . 著者名 Kazuyo Mizuno, Daisuke Sakamoto, and Takeo Igarashi 4 . 巻 60 (6)  2 . 論文標題 AssisTag; Seamless Integration of Content-based and Keyword-based Image Exploration for Category Search  3 . 雑誌名 Journal of Imaging Science and Technology, Society for Imaging Science and Technology 60401-1-12(12)  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2352/J. ImagingSci. Technol. 2016.60.6.060401 重際共著 法当する  1 . 著者名 尉林 暉, 杉浦 裕太 , 坂本 大介 , チョン トピー , 宮田 なつき , 多田充徳 , 大隈 隆史 , 蔵田 武志 , 新村 猛 , 持丸 正明 , 五十嵐 健夫 57(12)  2 . 論文標題 DOI I house VR: 複数人が異なる視点で共同作業を行うVR環境 5 . 発行年 2016年 2016年 2016年 3 . 雑誌名 情報処理学会論文誌 , 情報処理学会 第2610-2616 電読の有無 3 . 雑誌名 情報処理学会論文誌 , 情報処理学会 2610-2616	オープンアクセス	国際共著
Kazuyo Mizuno, Daisuke Sakamoto, and Takeo Igarashi       60 (6)         2. 論文標題	オープンアクセスとしている(また、その予定である)	該当する
Kazuyo Mizuno, Daisuke Sakamoto, and Takeo Igarashi       60 (6)         2. 論文標題		
2 . 論文標題		4 . 巻
AssisTag: Seamless Integration of Content-based and Keyword-based Image Exploration for Category Search  3 . 雑誌名 Journal of Imaging Science and Technology, Society for Imaging Science and Technology  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2352/J. ImagingSci. Technol. 2016.60.6.060401  1 . 著者名 尉林 暉 , 杉浦 裕太 , 坂本 大介 , チョン トピー , 宮田 なつき , 多田充徳 , 大隈 隆史 , 蔵田 武志 , 新村 猛 , 持丸 正明 , 五十嵐 健夫  2 . 論文標題 Dol I house VR: 複数人が異なる視点で共同作業を行うVR環境  3 . 雑誌名 情報処理学会論文誌 , 情報処理学会  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)  查読の有無	Kazuyo Mizuno, Daisuke Sakamoto, and Takeo Igarashi	60 (6)
AssisTag: Seamless Integration of Content-based and Keyword-based Image Exploration for Category Search  3 . 雑誌名 Journal of Imaging Science and Technology, Society for Imaging Science and Technology  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2352/J. ImagingSci. Technol. 2016.60.6.060401  1 . 著者名 尉林 暉 , 杉浦 裕太 , 坂本 大介 , チョン トピー , 宮田 なつき , 多田充徳 , 大隈 隆史 , 蔵田 武志 , 新村 猛 , 持丸 正明 , 五十嵐 健夫  2 . 論文標題 Dol I house VR: 複数人が異なる視点で共同作業を行うVR環境  3 . 雑誌名 情報処理学会論文誌 , 情報処理学会  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)  查読の有無		
Category Search       6.最初と最後の頁         3.雑誌名       6.最初と最後の頁         Journal of Imaging Science and Technology, Society for Imaging Science and Technology       6.最初と最後の頁         60401-1-12(12)       60401-1-12(12)         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)       査読の有無         10.2352/J. ImagingSci. Technol. 2016.60.6.060401       国際共著         オープンアクセス       国際共著         メープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       4.巻         別林 暉, 杉浦 裕太, 坂本 大介, チョン トピー, 宮田 なつき, 多田充徳, 大隈 隆史, 蔵田 武志, 新村       5.発行年         2.論文標題       5.発行年         DoII house VR:複数人が異なる視点で共同作業を行うVR環境       5.発行年         3.雑誌名 情報処理学会論文誌,情報処理学会       6.最初と最後の頁         指載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)       査読の有無		1 - 1 - 1
3 . 雑誌名 Journal of Imaging Science and Technology, Society for Imaging Science and Technology       6 . 最初と最後の頁 60401-1-12(12)         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.2352/J. ImagingSci. Technol.2016.60.6.060401       査読の有無         オープンアクセス       国際共著         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       国際共著         1 . 著者名 尉林 暉, 杉浦 裕太, 坂本 大介, チョン トビー, 宮田 なつき, 多田充徳, 大隈 隆史, 蔵田 武志, 新村 猛, 持丸, 正明, 五十嵐 健夫       4 . 巻 57(12)         2 . 論文標題 Dollhouse VR: 複数人が異なる視点で共同作業を行うVR環境       5 . 発行年 2016年         3 . 雑誌名 情報処理学会論文誌,情報処理学会       6 . 最初と最後の頁 2610-2616         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)       査読の有無		2016年
Journal of Imaging Science and Technology, Society for Imaging Science and Technology		
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.2352/J.ImagingSci.TechnoI.2016.60.6.060401  オープンアクセス  国際共著  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 尉林 暉, 杉浦 裕太, 坂本 大介, チョン トピー, 宮田 なつき, 多田充徳, 大隈 隆史, 蔵田 武志, 新村 猛, 持丸 正明, 五十嵐 健夫  2. 論文標題 DoIIhouse VR: 複数人が異なる視点で共同作業を行うVR環境  3. 雑誌名 情報処理学会論文誌,情報処理学会  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)  査読の有無		
10.2352/J. ImagingSci. Technol. 2016.60.6.060401 有	Journal of Imaging Science and Technology, Society for Imaging Science and Technology	60401-1-12(12)
10.2352/J. ImagingSci. Technol. 2016.60.6.060401 有		
10.2352/J. ImagingSci. Technol. 2016.60.6.060401 有		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       国際共著         1 . 著者名 尉林 暉, 杉浦 裕太, 坂本 大介, チョン トピー, 宮田 なつき, 多田充徳, 大隈 隆史, 蔵田 武志, 新村 猛, 持丸 正明, 五十嵐 健夫       4 . 巻 57(12)         2 . 論文標題 Dollhouse VR:複数人が異なる視点で共同作業を行うVR環境       5 . 発行年 2016年         3 . 雑誌名 情報処理学会論文誌,情報処理学会 情報処理学会論文誌,情報処理学会       6 . 最初と最後の頁 2610-2616         掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)       査読の有無		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難該当する1 . 著者名 尉林 暉, 杉浦 裕太, 坂本 大介, チョン トビー, 宮田 なつき, 多田充徳, 大隈 隆史, 蔵田 武志, 新村 猛, 持丸 正明, 五十嵐 健夫4 . 巻 57(12)2 . 論文標題 Dollhouse VR:複数人が異なる視点で共同作業を行うVR環境5 . 発行年 2016年3 . 雑誌名 情報処理学会論文誌,情報処理学会6 . 最初と最後の頁 2610-2616掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)査読の有無	10.2352/J.ImagingSci.Technol.2016.60.6.060401	有 有
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難該当する1 . 著者名 尉林 暉, 杉浦 裕太, 坂本 大介, チョン トビー, 宮田 なつき, 多田充徳, 大隈 隆史, 蔵田 武志, 新村 猛, 持丸 正明, 五十嵐 健夫4 . 巻 57(12)2 . 論文標題 Dollhouse VR:複数人が異なる視点で共同作業を行うVR環境5 . 発行年 2016年3 . 雑誌名 情報処理学会論文誌,情報処理学会6 . 最初と最後の頁 2610-2616掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)査読の有無	± = ₹\. ¬ = 1. ¬	
1 . 著者名       尉林 暉, 杉浦 裕太, 坂本 大介, チョン トビー, 宮田 なつき, 多田充徳, 大隈 隆史, 蔵田 武志, 新村 57(12)       4 . 巻 57(12)         2 . 論文標題		
尉林 暉,杉浦 裕太,坂本 大介,チョントビー,宮田 なつき,多田充徳,大隈 隆史,蔵田 武志,新村 猛,持丸 正明,五十嵐 健夫       57(12)         2.論文標題 Dollhouse VR:複数人が異なる視点で共同作業を行うVR環境       5.発行年 2016年         3.雑誌名 情報処理学会論文誌,情報処理学会       6.最初と最後の頁 2610-2616         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無	オーフンアクセスではない、又はオーフンアクセスが困難	該当する
尉林 暉,杉浦 裕太,坂本 大介,チョントビー,宮田 なつき,多田充徳,大隈 隆史,蔵田 武志,新村 猛,持丸 正明,五十嵐 健夫       57(12)         2.論文標題 Dollhouse VR:複数人が異なる視点で共同作業を行うVR環境       5.発行年 2016年         3.雑誌名 情報処理学会論文誌,情報処理学会       6.最初と最後の頁 2610-2616         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無		T . w
猛 , 持丸 正明 , 五十嵐 健夫5 . 発行年2 . 論文標題 Dollhouse VR : 複数人が異なる視点で共同作業を行うVR環境5 . 発行年 2016年3 . 雑誌名 情報処理学会論文誌 , 情報処理学会6 . 最初と最後の頁 2610-2616掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)査読の有無		_
2.論文標題 Dollhouse VR:複数人が異なる視点で共同作業を行うVR環境5.発行年 2016年3.雑誌名 情報処理学会論文誌,情報処理学会6.最初と最後の頁 2610-2616掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)査読の有無		57(12)
Dollhouse VR:複数人が異なる視点で共同作業を行うVR環境       2016年         3.雑誌名 情報処理学会論文誌,情報処理学会       6.最初と最後の頁 2610-2616         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無		
3.雑誌名 情報処理学会論文誌,情報処理学会       6.最初と最後の頁 2610-2616         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無		1 - 1 - 1
情報処理学会論文誌 , 情報処理学会 2610-2616 2610-2616 音読の有無	Dollhouse VR:複数人が異なる視点で共同作業を行うVR環境	2016年
情報処理学会論文誌,情報処理学会 2610-2616 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無	2 th÷+ 47	
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 査読の有無		
	情報処 <b>埋字</b> 会論又誌,情報処埋字会	2610-2616
		本芸の大畑
40	想載絵文のDOL(ごごねルオプジェクト学別ス)	
		_
ナープンフクセフ		_
	なし	有
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 -	オープンアクセス	_

1.著者名	4 . 巻
杉浦 裕太 , リー カリスタ , 尾形 正泰 , ウィタナ アヌーシャ , 坂本 大介 , 牧野 泰才 , 五十嵐 健夫 , 稲	57 (12)
見 昌彦	
2.論文標題	5 . 発行年
PINOKY:ぬいぐるみに動きを付与するデバイス	2016年
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
情報処理学会論文誌,情報処理学会	2542 - 2553
日本だなするm人心,日本だなチェム	2042 - 2000
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
· · · · · · =· ·	国际 <b>共</b> 有
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
. ***	. w
1. 著者名	4.巻
Morihiro Nakamura, Yuki Koyama, Daisuke Sakamoto, and Takeo Igarashi	35(7)
2.論文標題	5.発行年
An Interactive Design System of Free-Formed Bamboo-Copters	2016年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Computer Graphics Forum, Wiley	323-332
	3-3 33-
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1111/cgf.13029	有
10.1117/091110020	
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する
カープンテアとかとはない、人はカープンテアとスが四無	政コッジ
1 . 著者名	4 <del>*</del>
—	4.巻
Daisuke Sakamoto, Yuta Sugiura, Masahiko Inami, and Takeo Igarashi	49(7)
. AA-JEEF	5 7V./= hz
2.論文標題	5.発行年
Graphical Instruction for Home Robots. Computer	2016年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
IEEE,	20-25
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1109/MC.2016.195	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する
1 . 著者名	4 . 巻
深堀孔明,坂本大介,五十嵐健夫.	33(2)
////////////	(-)
2.論文標題	5.発行年
2. mm ス 信点 2	2016年
ŦIL 『主江/J ピノ y で用v バルた表グェクデヤ	2010 <del>11</del>
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
コンピュータソフトウェア,日本ソフトウェア科学会	116-124
担部会立のDOL(ごごクリナゴご」とし並引フト	本芸の左便
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-

1.著者名	4 . 巻
高橋哲・只野智弘・星野崇宏	9
2.論文標題	E ※行生
·····	5.発行年
効果的な効果検証?:非無作為化デザインによる刑事政策の因果効果の推定	2016年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
更生保護学研究	52-74
史主体護子研九	52-74
	本生の大畑
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
4 ***/7	4 34
1.著者名	4 . 巻
Kenshuke Okada, Takahiro Hoshino	印刷中
2.論文標題	5 . 発行年
Researchers' Choice of Number and Range of Levels in Experiments Affects the Resultant	2017年
Variance-Accounted-For Effect Size	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Psychonomic Bulletin & Review	印刷中
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する
1 . 著者名	4 . 巻
大賀 真伊・浦野 由平・北原 祐理・下山 晴彦	印刷中
2.論文標題	5.発行年
ARMSにおける認知的介入の作用メカニズムに関する研究の概観と展望	2017年
ANNOICUT/ SINMUTH AND IN AND	2017-
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要	印刷中
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアッセスオープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	- 日际六年
1. 著者名	4 . 巻
恩田 豪・信吉 真璃奈・山本 瑛美・舘野 弘樹・平林 佳奈・下山 晴彦	印刷中
2.論文標題	5 . 発行年
学校適応感研究の現状と今後の展望	2017年
A DESCRIPTION OF A DESCRIPTION OF THE PROPERTY	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要	印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	☆読の有無
なし	無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著

〔学会発表〕	計15件(うち招待講演	0件/うち国際学会	11件)

1.発表者名

Hamamura, T., Kawai, K., Uchimura, Y., Suganuma, S., Sato, K., & Shimoyama, H.

2 . 発表標題

Does a self-monitoring mobile app help reduction of problem drinking?: A pilot randomized controlled trial among Japanese problem drinkers.

3.学会等名

International Congress of Psychological Science, Paris, France (国際学会)

4 . 発表年

2018年

## 1.発表者名

Hamamura, T., Suganuma, S., Takano, A., Matsumoto, T., & Shimoyama, H.

2 . 発表標題

How effective is a brief website intervention with personalized normative feedback among Japanese adults with risky drinking? Findings from a pilot RCT

3 . 学会等名

the 19th Congress of International Society for Biomedical Research on Alcoholism, Kyoto, Japan (国際学会)

4 . 発表年

2018年

1.発表者名

中村杏奈・下山晴彦

2 . 発表標題

愛着スタイルが曖昧なポジティブ感情の判断に与える影響

3.学会等名

日本心理学会第82回大会,仙台

4.発表年

2018年

#### 1.発表者名

中村杏奈・下山晴彦

2 . 発表標題

抑うつ状態とASD傾向:表情認知の苦手さが異なる学生を対象としたアナログ研究から

3 . 学会等名

日本うつ病学会第14回大会, 東京.

4.発表年

2017年

1 . 発表者名 浜村俊傑・菅沼慎一郎・上田麻実・下山晴彦
2 . 発表標題 セルフモニタリングアプリが与える飲酒量・日常ストレスへの効果
3.学会等名 第39回日本アルコール関連問題学会,東京
4 . 発表年 2017年
1.発表者名 浜村俊傑・中村杏奈・吉田成朗・Jack Mearns・下山 晴彦
2 . 発表標題 VR表情フィードバック装置が情動・自伝的記憶に及ぼす影響: ネガティブ気分制御期待感に着目して
3.学会等名 日本心理学会第81回大会,久留米
4 . 発表年 2017年
a 75±47
1.発表者名 Fujio, M., Kano, Y., Matsuda, N., Nonaka, M., Kono, T., Nobuyoshi, M., & Shimoyama, H
2.発表標題 The investigation into the changes of subjective urges in people with Tourette Syndrome
3.学会等名 The 31st International Congress of Psychology, (国際学会)
4 . 発表年 2016年
4 N. T.
1. 発表者名 Hirano, M., Ogura, K., Sakamoto, D., Iwano, Y., Yamashita, Y., Tsuchida, T., Suganuma, S. & Shimoyama, H.
2 . 発表標題 Interaction at home between a human and a talking cleaning robot as an apprentice counsellor
3.学会等名 The 31st International Congress of Psychology(国際学会)

2016年

1.発表者名 Nakano, M., Suganuma, S. & Shimoyama, H
2 . 発表標題 Development and implementation of a three-day ICT-based mental health learning program.
3.学会等名
The 31st International Congress of Psychology(国際学会)
4 . 発表年 2016年
1 . 発表者名 Nobuyoshi, M., Kano, Y., Matsuda, N., Fujio, M., & Shimoyama, H
2 . 発表標題 Reliability and validity of Japanese version of the Sensory Gating Inventory (SGI)
3 . 学会等名 The 31st International Congress of Psychology(国際学会)
4 . 発表年 2016年
1 . 発表者名 Ogura, K., Hirano, M., Sakamoto, D., Iwano, Y., Yamashita, Y., Tsuchida, T., Suganuma, S. & Shimoyama, H
Ogura, K., Hirano, M., Sakamoto, D., Iwano, Y., Yamashita, Y., Tsuchida, T., Suganuma, S. & Shimoyama, H 2.発表標題
Ogura, K., Hirano, M., Sakamoto, D., Iwano, Y., Yamashita, Y., Tsuchida, T., Suganuma, S. & Shimoyama, H  2 . 発表標題 Difference of emotional self-regulation behavior by mental state  3 . 学会等名
Ogura, K., Hirano, M., Sakamoto, D., Iwano, Y., Yamashita, Y., Tsuchida, T., Suganuma, S. & Shimoyama, H  2 . 発表標題 Difference of emotional self-regulation behavior by mental state  3 . 学会等名 The 31st International Congress of Psychology(国際学会)  4 . 発表年
Ogura, K., Hirano, M., Sakamoto, D., Iwano, Y., Yamashita, Y., Tsuchida, T., Suganuma, S. & Shimoyama, H  2 . 発表標題 Difference of emotional self-regulation behavior by mental state  3 . 学会等名 The 31st International Congress of Psychology (国際学会)  4 . 発表年 2016年
Ogura, K., Hirano, M., Sakamoto, D., Iwano, Y., Yamashita, Y., Tsuchida, T., Suganuma, S. & Shimoyama, H  2. 発表標題 Difference of emotional self-regulation behavior by mental state  3. 学会等名 The 31st International Congress of Psychology (国際学会)  4. 発表年 2016年  1. 発表者名 Coue M

1 . 発表者名 Ooue M., Yamamoto E., Suganuma S., Shimoyama H	
2. 発表標題 Possibilities and limits of mindfulness approach in Japan: A consideration of the mindfulness-ba	ased iPhone application
3.学会等名 The 31st International Congress of Psychology(国際学会)	
4 . 発表年 2016年	
1.発表者名 Suganuma, S. & Shimoyama, H	
2. 発表標題 The psychological intervention of cognition in resignation through mobile application	
3.学会等名 The 31st International Congress of Psychology(国際学会)	
4 . 発表年 2016年	
1 . 発表者名 Urano, Y., Suganuma, S., & Shimoyama, H	
2. 発表標題 Development of an iPhone application focusing on the experience of "akirameru" : Verifying its effect on mental health using qualitative data	
3 . 学会等名 The 31st International Congress of Psychology(国際学会)	
4 . 発表年 2016年	
〔図書〕 計9件	
1.著者名 下山晴彦(編)	4 . 発行年 2021年
2. 出版社 金剛出版	5.総ページ数 137
3 . 書名 特集オンライン心理相談の最前線	

1 . 著者名	4.発行年
シュレンペル レナ	2020年
2 山屿5 <sup>2</sup>	E P(Y ▼0
2.出版社	5.総ページ数 204
東京大学出版会	ZU4
3 . 書名	
3 . 青石   うつ病治療のサービス・ギャップの解決に向けてーICTを用いた心理支援の活用ー	
フラMAITIRのフェース・エドソフの肝/人に凹けて一いで用いた心理又抜い//	
1. 著者名	4.発行年
- ・・ロロロー	2019年
2. 出版社	5.総ページ数
放送大学教育振興会	234
2 70	
3 . 書名	
改訂版 認知行動療法	
L	
1.著者名	4.発行年
	2019年
	20107
2. 出版社	5.総ページ数
東京大学出版会	226
3 . 書名	
臨床心理学入門	
1.著者名	4.発行年
□□・者看名 大野裕・下山晴彦(編著)	4 . 発行年 2019年
ハギョロ・ド山州杉(神名)	ZU19 <del>11</del>
2 . 出版社	5.総ページ数
金剛出版	153
3 . 書名	
公認心理師のための簡易型認知行動療法入門	

1.著者名 下山晴彦(監修)	4 . 発行年 2018年
2. 出版社 北大路書房	5 . 総ページ数 210
3 . 書名 公認心理師のための「発達障害」講義	
1.著者名 下山晴彦(監修)菅沼 慎一郎(著)	4 . 発行年 2018年
2 . 出版社 ミネルヴァ書房	5.総ページ数 <sup>192</sup>
3.書名 前向きな諦め を促すインターネット認知行動療法:日本文化にそくした心理支援のために」	
1.著者名	4.発行年
下山晴彦・熊野宏昭・鈴木伸一	2017年
下山晴彦・熊野宏昭・鈴木伸一 2.出版社 講談社	
2.出版社	2017年 5 . 総ページ数
2. 出版社 講談社         3.書名 臨床心理フロンティアシリーズ 認知行動療法入門         1.著者名 下山晴彦・中嶋義文(編集)	2017年 5 . 総ページ数
2. 出版社 講談社         3.書名 臨床心理フロンティアシリーズ 認知行動療法入門         1.著者名 下山晴彦・中嶋義文(編集)         2. 出版社 医学書院	2017年 5.総ページ数 <sup>248</sup> 4.発行年
2. 出版社 講談社         3.書名 臨床心理フロンティアシリーズ 認知行動療法入門         1.著者名 下山晴彦・中嶋義文(編集)         2. 出版社	2017年 5.総ページ数 248 4.発行年 2016年

〔産業財産権〕

# 〔その他〕

うこそ、下山研究室へ
ttp://www.p.u-tokyo.ac.jp/shimoyama/
「山研究室 科研費の研究情報 ttp://www.p.u-tokyo.ac.jp/shimoyama/08kaken/index.html
TUB://www.p.u-tokyo.ac.jp/sittiiioyaliia/ookakeii/fildex.fittiiii
ttp://www.p.u-tokyo.ac.jp/shimoyama/
1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -

_	7T	「ヴマルロ	l birth
6	ᄬ	F究組	l細

	· N170114		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	菅沼 慎一郎	防衛大学校(総合教育学群、人文社会科学群、応用科学群、 電気情報学群及びシステム工学群)・人文社会科学群・講師	
研究分担者	(Suganuma Shinichro)		
	(60756451)	(82723)	
	坂本 大介	北海道大学・情報科学研究院・准教授	
研究分担者	(Sakamoto Daisuke)		
	(00556706)	(10101)	
	星野 崇宏	慶應義塾大学・経済学部(三田)・教授	
研究分担者	(Hoshimo Takahiro)		
	(20390586)	(32612)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	(Schlepper Lenna)		
	北原 祐理		
研究協力者	(Kitahara Yuri)		

# 7.科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------